

## 特別講演 2

### 歯周病スクリーニングのあり方

岩崎 正則

北海道大学大学院歯学研究院  
口腔健康科学講座予防歯科学教室 教授



#### <略歴>

2006年3月北海道大学歯学部歯学科卒業

2007年3月新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修課程修了

2008年11月アメリカ・ミシガン大学 客員研究員

2010年3月新潟大学医歯学総合研究科（口腔生命科学専攻）博士課程修了

2010年4月新潟大学医歯学総合病院 医員

2010年6月新潟大学医歯学総合病院 助教

2014年10月九州歯科大学 准教授

2020年3月東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長

2020年4月九州歯科大学 客員教授（兼任・現在まで）

2022年4月東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長

2023年4月東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員（兼任・現在まで）

2023年4月北海道大学大学院歯学研究院 教授（現在まで）

## 抄録

国民の主要な疾病負荷やその変遷を把握することは、保健政策や保健分野における課題解決のためにも必要不可欠です。性・年齢・地域別の疾病、傷病、危険因子による健康損失を比較可能な形で包括的に定量化することを目的とする Global Burden of Disease Study（世界の疾病負担研究：GBD）は、保健指標や保健政策立案のために国際的に活用されています。

GBD2021 を用いて、重度歯周病の発生率や罹患率、障害生存年数（YLD）などを分析した研究の結果が Journal of Periodontal Disease で公表されました（First published: 27 August 2024, DOI:10.1111/jre.13337）。この研究によると、2021 年、世界で 10 億人以上の方が重度歯周病に罹患しており、年齢調整有病率は 12.5%です。2050 年には、重度歯周病の罹患者数は 15 億人を超える（2021 年と比較して 44.3%の上昇）と見込まれています。現在、そして将来にわたって、歯周病は公衆衛生上の大きな課題となっています。

健診や疫学調査における歯周病のスクリーニング方法のゴールドスタンダードは歯周ポケットプロービングですが、その実施には費用、労力等から課題が多いのが現状です。歯周病の早期発見、重症化予防に資する方法、そして、受診者に気づきの機会を提供し、行動変容できるように働きかけのできる方法、すわなち、歯周組織の健康状態を見える化し、健康意識を高めて行動変容を促す、効率的で簡便な方法の検討が長く続けられています。

本講演では、スクリーニングとしての健康診査のあり方について考察し、歯周病スクリーニング方法として、自記式質問票、そして、舌を綿棒で拭った検体をターゲットとし、口の中の環境を迅速に検査することのできるキットの 2 つについて、ご紹介いたします。